

# 令和5年度 港湾防災防止協会無災害記録表彰 82事業場（うち第5種は11事業場）受賞

港湾防災防止協会においては、全国安全週間及び港湾労働安全強調期間初日の7月1日付けをもって当協会無災害記録表彰規程に基づき、25回目（令和5年度）の無災害記録表彰を行いました。

この「港湾防災防止協会無災害記録表彰」は、会員事業場が毎年末時点で同表彰規程に定める無災害期間または無災害延労働時間を記録している場合に、同事業場からの報告により、支部長が上申し、総支部長の審査・推薦に基づき行われるものです。

今年度は、各総支部長から推薦された82事業場が受賞されました。昨年までに第4種無災害記録を樹立された事業場のうち、引き続き記録を伸ばし、第5種を受賞されたのは11事業場でした。

今回の第5種無災害記録の最長時間を記録した事業場は、中国総支部の日本通運株式会社水島海運支店の154万1千時間でした。（なお、第5種無災害記録を達成された事業場の中から下関海陸運送株式会社から受賞の感想などをお聞きしていますので、次頁をご覧ください。）

無災害記録の樹立は、一步一步着実に

無災害記録の表彰候補推薦書作成の時点で、記録した時間数が表彰規程を上回り、上位区分の基準に達していたとしても、飛び級表彰は行われないうととされています。

無災害記録の樹立は、安全パトロール等により職場の危険を発見し、災害防止対策を実施するなど、危険、有害要因を排除して、一步一步着実に進めましょう。

## 第五種無災害記録表彰



下関海陸運送株式会社 殿

令和5年7月1日

港湾防災防止協会

会長 花本 幸平

第五種副賞（安全盾仕様）

表彰区分及び年度別港湾防災防止協会無災害記録表彰件数

年度	区分	1種	2種	3種	4種	5種	合計
16年度		50	39	36	32	43	200
17年度		54	38	42	30	34	198
18年度		42	40	32	35	34	183
19年度		55	30	35	26	34	180
20年度		54	39	26	30	14	163
21年度		56	45	28	18	32	179
22年度		64	52	37	25	17	195
23年度		43	43	48	33	18	185
24年度		44	31	39	36	30	180
25年度		38	36	30	33	31	168
26年度		38	31	28	22	30	149
27年度		40	27	24	24	19	134
28年度		38	27	20	25	17	127
29年度		32	29	21	16	20	118
30年度		22	27	22	17	17	105
元年度		21	21	16	16	21	95
2年度		32	14	19	16	12	93
3年度		23	13	11	19	11	77
4年度		21	32	13	12	12	90
5年度		21	19	22	9	11	82

※平成11年度～15年度は、省略しました。

高める意識と安全行動  
築こうみんなのゼロ災職場

これは、今年度の全国安全週間及び港湾労働安全強調期間のスローガンです。

全会員事業場が引き続き安全衛生生活に取り組み無災害記録を伸ばされることを祈念しております。

ご安全に！

**無災害記録表彰：最高位「第5種」受賞の事業場からの報告**

下関海陸運送株式会社（沿岸部門で無災害時間が104万1千時間）



本社社屋

下関海陸運送株式会社（代表取締役社長 米田亘宏）は、一九五〇年に下関において創業以来地元企業として活動を続けてまいりました。戦後の荒廃から復興に向かう激動期の同年三月一日に、当時盛況を誇っていた下関漁港に水揚げされる鮮魚の荷役と輸送を経営の柱として発足し、漁港と化学工場の荷役・輸送から始まり、貨物自動車運送業、貨物運送取扱業、港湾運送事業、倉庫業、通関業などの業務を幅広く展開し、二〇二三年三月創立七十三周年を迎えました。

安全活動の取組みについては、当社が長年に亘り作り上げた安全管理体制

の下で、社員全員が一丸となって自主的・自発的に災害防止活動に邁進することが最重要だと考えています。安全管理体制は、安全衛生委員会が主管であることは言うまでもありませんが、

安全衛生委員会で報告されたもの・協議されたものは速やかに各現場で開催される安全衛生懇談会で社員全員に共有され、一日でも早く危険の芽が摘み取れるように取り組んでいます。また、年二回、役員全員が参加する安全パトロールを実施し、起因となる危険ポイントの洗い出しをして、安全対策・改善策を図り、災害の防止に努めると共に全社員の安全意識高揚に繋がっています。

現場においては、稼働が多く常に危険が伴うフォークリフトにドライブレコーダーを取付けて不安全行為のチェックを行い、安全確保のためにドライレコ指導教育として活用しており、ドライブレコーダーは「自分たちを守るため」という認識を持ち、危険ポイントでの操作状況の確認、基本動作や指差し呼称が出来るかを現場リーダーから指導して、不安全行為の撲滅に努めています。慣れや油断、うっか

りやぼんやりを防ぐために指差し呼称に重点を置き、毎月指差し呼称指導員を指名して安全衛生懇談会で、浸透度を報告して定着化を図り、また講習会にも参加して、指差し呼称の重要性の認識を高めています。



ドライレコ指導教育

更に作業前KYでは「作業で考えられる危険」についてはリスク評価をし、「最も危険と考えられるもの」については対策を講じた上で行動目標を立てて、如何にして災害を防止するか、如何にして危険要素を潰すかを考え、自分たちの職場は自分たちで守るを実践するためのスタートは危険予知活動として位置付けています。

ヒヤリハット活動では毎月一人二件以上の「先取安全体験ヒヤリハット報告書」を提出しています。報告書全て

を取り纏めて、発生要因別や時間帯別になどに区分し、検証されたものが安全衛生委員会で報告され、未然防止・類似事故防止の一助となっています。

リスクアセスメントでは各作業方法で危険性の発生の恐れがある災害を挙げて、リスク低減措置前と後で労働者保護の観点を重視した見積り・評価をして、事前的に確かな安全対策を講じ、潜在的な危険性を残さないよう努めています。

各現場で実施する安全衛生懇談会では、他社事例を他山の石として討議をしており、現状把握・本質追求・対策樹立の三つのラウンドに分けて全員で意見を出し合い、社員一人ひとりのリスクに対する考え方について正しい方向へと導けるように取り組んでいます。

今回の名誉ある無災害記録表彰「第5種」の受賞は社員一同が、今後の安全活動への取組強化の契機と捉え、『安全は全てに優先する』を行動で示し、全社員が『決めたことを守り・守らせ・実践する』を実現させ、無災害を一日一日積み重ねて参ります。

これから益々精進し、安全な職場作りを目指すとともに、無災害記録表彰「第1種」の受賞に向けて再出発していきます。

ご安全に！

物流部 港運倉庫1課 竹重 裕次郎